

東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」の 利用実態からみる現状と課題

The Current Situation and Issues of the Learning Commons “Colatelier”
at Tohoku Gakuin University in the Context of its Use Tendencies

東北学院大学 ラーニング・コモンズ 嶋田みのり

要約

東北学院大学では、2016年9月にラーニング・コモンズ「コラトリエ」が開設された。本稿では、入退室記録、観察調査、質問紙調査から、LC開設後1年間の利用状況を分析し、本ラーニング・コモンズの利用傾向を分析した。その結果、入退室記録からは、利用者人数及び利用率が伸びていること、滞在時間が他施設よりも長いこと、観察調査からは、少人数での利用が多いこと、質問紙調査からは、正課に関する学習を目的とした利用が多く、グループ活動において話し合いや教え合いといった行動が多くみられたこと等が明らかになった。一方、LCを利用していない学生の現状や運用状況に課題もみられた。

キーワード：ラーニング・コモンズ、学習環境、利用実態、授業外学習

1. はじめに

近年、多くの大学においてラーニング・コモンズ（以下、LC）が設置され、授業外学習や正課外活動の場として活用が進んでいる。東北学院大学においても、2016年9月にLC「コラトリエ」が開設され1年以上が経過した。LCの規模や機能は、各大学によって異なっており、その利用実態も大学の規模や設置学部などによって多様である。そのため、それぞれの大学の文脈を踏まえた上で、個々のLCの運用の現状を明らかにすることは、今後の運用や改善を行うために重要であるといえる。そこで本研究では、開設後1年間の利用状況を入退室記録観察調査、質問紙調査から明らかにし、LCの現状や課題について考察する。

2. 先行研究及び本研究の問題設定

LCの利用実態を分析している先行研究として、津村（2011）、三根（2012）、野中（2014）、金子（2015）、山田（2016）等がある。これらの先行事例では、単独利用よりグループ利用が多い点やPCの利用が多い点などが共通して挙げられている。

先に述べた先行事例もそうであるが、LCの利用実態を明らかにする方法として、観察調査

がよく用いられている。立石（2012）は、観察調査によって、これまで主流であった質問紙調査では得られない実証的データから利用実態を明らかにしたが、利用者の主観的な判断や意識を計ることができないため、質問紙調査等の他の手法と組み合わせる必要があることを指摘している。一方、観察調査以外の定量的な分析から利用実態を明らかにしているものとして、鈴木ほか（2015）や浜島（2017）が挙げられる。鈴木ほか（2015）はLCの入室者、エリアの使用状況、学習相談データから、LCの利用実態を分析している。

本学においても、LC開設前に、図書館1階に設置されている協同学習スペース「アクティブ・コート」における利用実態を観察調査及び質問紙調査によって明らかにした（遠海ほか2016、嶋田ほか2016）。「アクティブ・コート」では、電子黒板等のICT機器類が設置されているスペースよりもホワイトボードが設置されているスペースの方が利用されていること、利用の大部分が正課に関する学習（学修）であったこと、支援ニーズとしてICTの使い方に関するサポートが高いこと等が明らかになった。これらの結果を踏まえ、2016年に開設されたLCでは、学期の開始時にICTの使い方等を含めたLCの利用方法を体験的に学ぶ利用者ガイダンス「コラトリエ・ツアー」を実施する等、LCの利用実態調査の結果からLCの運用やサービスを検討している。

また、LC開設後に、LCがどのように活用されているかを明らかにするために、開設後半年間（2016年度後期）の利用傾向を①入退室記録、②施設利用記録、③観察調査の3つのデータから分析した（嶋田ほか2017）。前述の「アクティブ・コート」と同様、少人数での利用が多かったこと、正課に関する学習（学修）の利用が多かったことが明らかになった。また、予約優先エリアの滞在時間が学内の他施設と比べて非常に長かったこと、ホワイトボードに比べて電子黒板の利用が多くみられたこと、7割を超えるグループにおいて話し合いが行われていたこと等もわかった。しかしながら、開設後半年間の利用傾向に限定されていたこと、利用目的や滞在時間の分析が、予約優先エリアに限定されていたこと、また観察調査だけでは、観察時点での活動内容に限定されるため、利用者の利用目的や活動内容の全体像がみえにくいといった課題が挙げられた。

そこで、本稿では、①開設後1年間経った現状から、LCの全体的な利用傾向を入退室記録から明らかにすること、②観察調査だけではなく質問紙調査も併せて行うことで、より詳細な利用者の学習行動や学習内容を定量的な観点から明らかにする。これらの結果から、LCの現状や課題について考察する。

3. 本学のLC「コラトリエ」の特徴

ここでは、本学のLCの特徴についてみていく。本LCは、主に授業外学習や正課外活動を行

う場として、学生の自主的な利用が想定されている。そのため、授業での利用は、学期に2～3回程度までという制限を設けている。

主な利用者は、土樋キャンパスに在籍している文系（法・経済・経営・文）学部の3・4年生の3749名（2017年5月1日現在、以下同様）である。泉キャンパスの文系1・2生（3677名）及び教養学部の全学年（1807名）、多賀城キャンパスの工学部の全学年（2003名）学生も利用できるが、どちらも電車やバス等で1時間程度かかるため、利用が難しい状況にある。その他、大学院生、教職員も利用可能である。また、後述するが、一部のエリアは一般に開放されており、他大学の学生や地域住民も利用できるようになっている。

本LCは、図書館とは独立しており、大講義室や演習室、研究室、地下ホール等が入る建物の1・2階部分に設置されている。フロアは、「コラトリエ・リエゾン（図1）」「コラトリエ・コモンズ（図2）」「コラトリエ・サヴォア（図3）」の3つに分かれており、それぞれ特徴を表1に示す。

表1 3フロアの特徴

フロア名	リエゾン	コモンズ	サヴォア
階	1階		2階
コンセプト	自由なコミュニケーション発信空間		探究・創造空間
面積	166㎡	378㎡	715㎡
席数	80席	133席	180席
利用者	制限なし	学生・教職員限定	
飲食	飲食可	蓋つき飲料のみ可	
施設の特徴	地域に開かれたイベント・交流スペース/カフェ併設	広いオープンスペース/ファミレス風のボックス席/PC席	学習支援エリア/個室/半個室/畳/図書資料/国際交流ラウンジ等

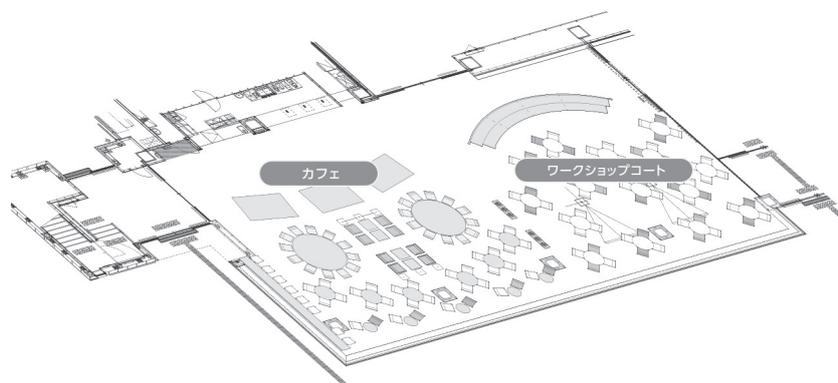


図1 コラトリエ・リエゾン

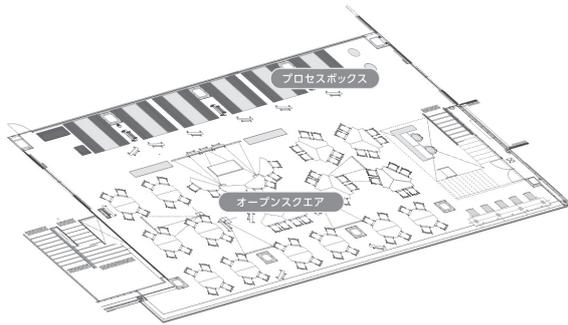


図2 コラトリエ・commons

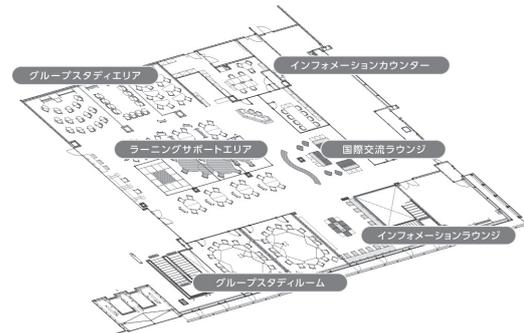


図3 コラトリエ・サヴォア

4. 分析方法

本研究では、①入退室記録②観察調査及び質問紙調査のデータからLCの利用傾向を分析した。

4-1. 入退室記録の分析

LCの全体的な利用傾向を把握するために、LCの「コラトリエ・commons」及び「コラトリエ・サヴォア」に3か所設置されている入退室ゲートから、利用者の入退室記録を取得し、LC全体の利用傾向や学部別の利用傾向、滞在時間を分析した。分析の対象期間は、2016年後期（2016年9月12日～2017年1月28日）と2017年度後期（2017年4月1日～2017年8月5日）の授業実施期間（試験期間を含む）である。なお、「コラトリエ・リエゾン」は、学外者や地域住民も自由に利用できるよう設計されているため、入退室ゲートが設置されていない。そのため、「コラトリエ・リエゾン」は本研究の分析の対象外とした。

4-2. 観察調査及び質問紙調査

LC内の利用者の行動を明らかにするために、観察調査及び質問紙調査を行った。調査期間は、2017年7月18日（火）から7月31日（月）までの計11日間である。調査の時間帯は、1校時から6校時の各授業の開始時間から30分後（9時30分、11時20分、13時30分、15時10分、17時、18時30分）に設定し、1日6回実施した。なお、土曜日は17時閉室のため、1日5回、日曜日は閉室のため調査は実施していない。調査対象は、LCの3つのフロアのうち、入退室ゲートを設置している「コラトリエ・commons」、「コラトリエ・サヴォア」を対象とした。

調査方法は、調査協力者が各フロアを見回り、利用者の位置、人数、利用行動、使用している設置機器類をフロアの見取り図上に記録した。また、観察調査だけでは判別しにくい具体的な利用目的や利用行動を明らかにするために、観察調査を実施したグループを対象に、任意で質問紙調査を実施した。質問項目は、利用目的、活動内容、また2人以上で利用しているグルー

プには、グループ活動の形態や具体的な活動内容について尋ねた。観察調査の調査票と質問紙調査は同一の紙であるため、観察調査終了後、調査票を全グループに一枚ずつ渡し、退出時に回収箱に入れてもらった。観察調査は、期間中、のべ1185グループ、2133人に実施し1086グループ（回収率91.6%）の調査票を回収した。質問紙調査の回答は、1グループ、1日1回のみに限定し、2回目以降は、白紙のまま提出をしてもらった。その結果、587グループ（有効回答率49.5%）から回答を得た。

5. 結果

5-1. 入退室記録の分析結果

5-1-1. LC全体の利用傾向

図4は、一日当たりの平均利用者数の推移を表したものである。2016年後期の一日当たりの平均利用者数は、192.4人であったが、2017年前期は、225.3人であり、2017年前期の利用が増加していた。月別にみると、2016年度後期は11月の利用が206.3人で最も多かったが、2017年度前期は、7月の利用が289.0人で最も多く、特に2017年前期は学期末にかけて利用者数が増加していた。

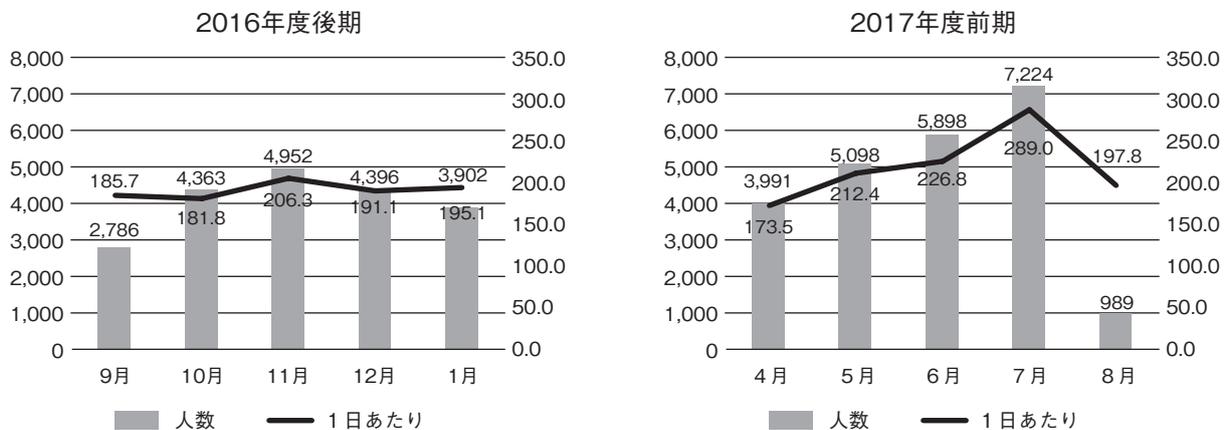


図4 1日当たりの平均利用者数の推移

図5は、曜日別の一日当たりの平均利用者数である。2016年度後期は、木曜日の利用者数が177.5人で他の曜日に比べてやや多かったが、2017年度前期は、水曜日が268.2人で最も多かった。本学では、木曜日の4校時以降は授業の実施がないため、木曜日の利用が多いことが予想されたが、2017年度前期の利用をみると、その影響はみられなかった。また、本学では、土曜日にも授業が実施されており、平日に比べると利用は少ないが、2016年後期は89.1名、2017年前期は

60.4名の利用があった。2016年度後期と2017年度前期では曜日別の利用傾向は異なっていたが、これは実施されている授業や時間割が異なっていることが影響していると考えられる。

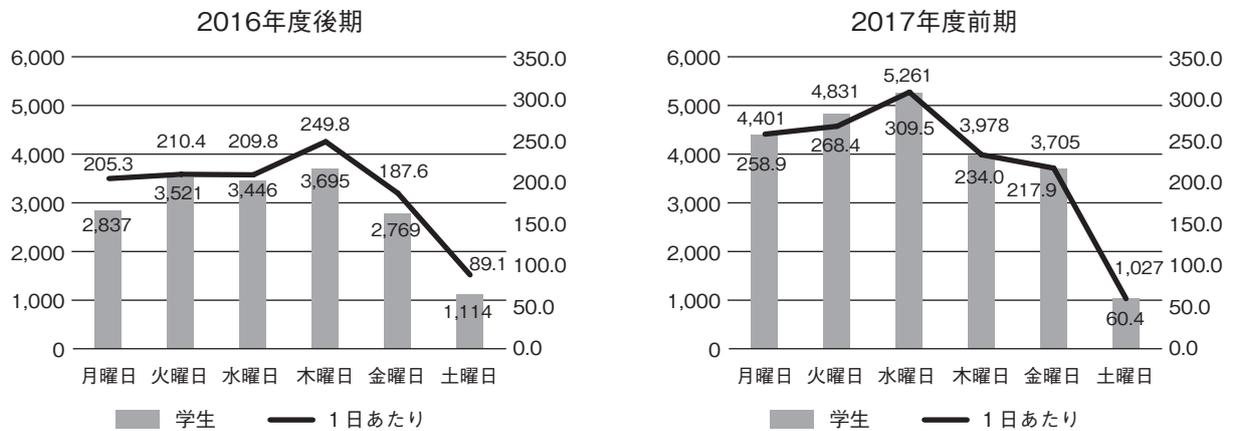


図5 曜日別の1日当たりの平均利用者人数

図6は、入室者数を時間別にまとめたものである。最も多い時間帯は、2016年度後期と2017年度前期ともに、14時から15時の時間帯である。4校時目前後の時間帯での入室が多く、午後時間帯によく利用されている。一方、18時以降の入室は、平均で15人程度あり、夕方以降の入室者は少ないのが現状である。時間別の利用傾向は、2016年後期と2017年前期ともに同じであったといえる。

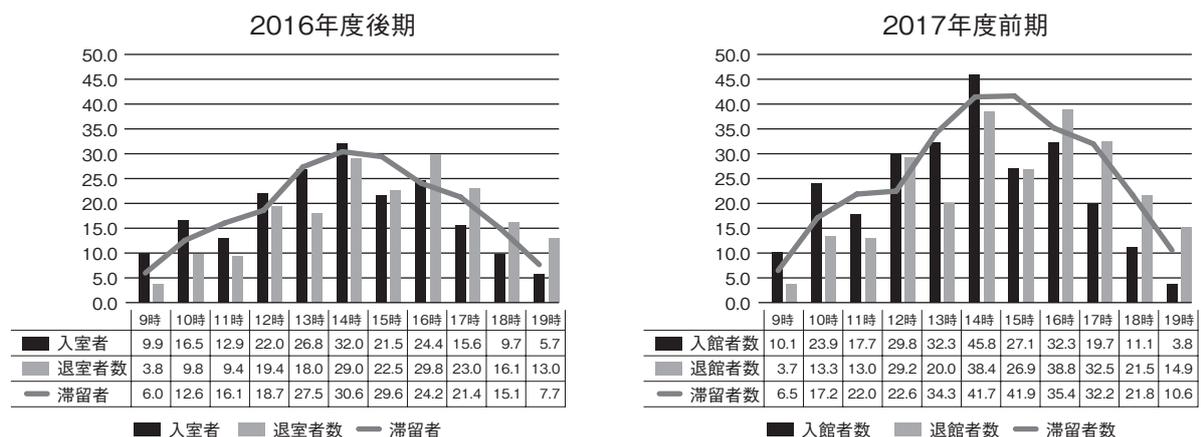


図6 時間別入退室者数

5-1-2. 学部別の利用状況

次に、学部別の利用状況についてみていく。表2は、2016年度後期、表3は、2017年度前期の学部別の利用状況をまとめたものである。利用率は、各学部の在学者のうち、LCを利用し

たことがある人の割合を示している。のべ利用者数をみると、2016年後期、2017年前期ともに、経済学部が最も多かったが、利用率は、文学部が最も高かった。2016年後期と2017年前期を比較すると、利用率は、全学平均で、17.1%から20.0%、土樋キャンパスに限定すると、49.0%から56.7%に上がっており、利用者の層が少しずつ広がっているといえる。学部別にみると、すべての学部において利用率が高くなっていたが、特に、土樋キャンパスの経営学部と経済学部の利用率が伸びていた。一方、全学の80.0%、土樋キャンパスに限定すると、43.3%の学生が一度もLCを利用していないということがわかった。このことから、開設時に比べ、利用者層は徐々に拡大してきているものの、利用促進に向けた更なる働きかけが必要であるといえる。

表2 2016年度後期の学部別の利用状況

	文	経済	経営	法	工	教養	計
在学者数	1,884	2,735	1,419	1,520	2,054	1,863	11,475
のべ利用者数	4,880	6,877	2,790	1,980	21	834	17,382
実人数	549	595	336	350	11	119	1,960
利用率	29.1%	21.8%	23.7%	23.0%	0.5%	6.4%	17.1%
利用率（土樋のみ）	59.9%	44.4%	47.9%	45.1%			49.0%
平均利用回数	8.9	11.6	8.3	5.7	1.9	7.0	8.9

表3 2017年度前期の学部別の利用状況

	文	経済	経営	法	工	教養	計
在学者数	1,855	2,656	1,416	1,499	2,003	1,807	11,236
のべ利用者数	6,334	7,738	5,649	3,009	21	452	23,230
実人数	622	717	409	371	11	121	2,251
利用率	33.5%	27.0%	28.9%	24.7%	0.5%	6.7%	20.0%
利用率（土樋のみ）	67.5%	53.6%	57.6%	48.1%			56.7%
平均利用回数	10.2	10.8	13.8	8.1	1.9	3.7	10.3

5-1-3. 滞在時間

さらに、1回あたりの滞在時間を分析した（図7）。入退室記録には、ゲート入室時のエラーや退室時の記録漏れ等が混ざっているため、5分未満及び、480分以上の利用を省いて集計した。その結果、1回あたりの平均滞在時間は、2016年度後期は、74.6分、2017年度前期は、68.9分であった。実際の利用の様子を見てみると、長時間LCに滞在する学生は、飲食やトイレ休息等のために一時退室するケースが多い。実際、2016年度後期の施設利用記録を分析すると、プロセスボックス（6ブース）が平均182分、グループスタディエリア（3エリア）が平均185分、グループスタディルーム（2部屋）が平均236分の滞在時間になっており、これらの予約優先エリアの利用に限ると、滞在時間は非常に長い（嶋田2017）。このことから、実際の一日のLCの滞在時間はさらに長いと推測される。また、本学では、4年に一度、学生生活実態調査が実施されているが、それによると本学学生の平均的な1日あたりの「図書館・コンピュータ室等

での自習時間」は、平均0.57時間で、1時間以内が8割、2時間以内が9割を占めている（東北学院大学学生部 2015）。この調査は、2014年9月に実施された調査であるが、それと比べても、LCの滞在時間は比較的長いといえる。

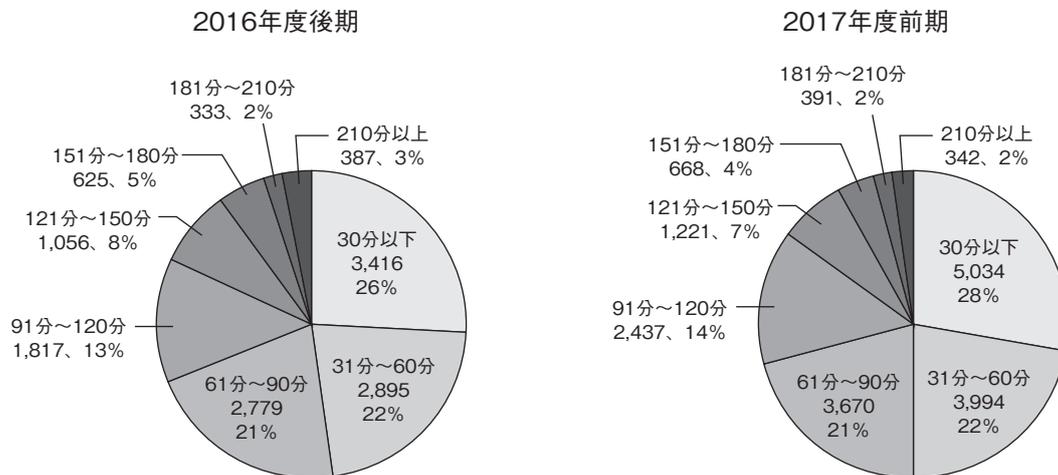


図8 1回あたりの滞在時間

5-2. 観察調査の結果

表4は、1グループあたりの利用者人数を示している。一人利用は、全グループの51.9%、全利用者の26.4%を占めていた。2016年11月及び12月に実施した観察調査（嶋田ほか2017）では、1人利用が全グループの39.4%、全利用者の16.5%であり、今回の調査では、その時に比べ一人利用の割合が多くなっている。これは、調査時期が学期末の試験期間直前の時期であったことが影響していると考えられる。一方、今回の調査においても全利用者のうち73.6%は、2人以上で利用しており、少人数のグループでの利用が多いことがわかった。

表4 1グループあたりの人数

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人～	合計
グループ数	564	248	122	96	28	20	1	7	1,086
(%)	51.9	22.8	11.2	8.8	2.6	1.8	0.1	0.6	100
利用者数	564	496	366	384	140	120	7	56	2,133
(%)	26.4	23.3	17.2	18	6.6	5.6	0.3	2.6	100

また、場所別の利用状況を見てみると、一人で利用する場合、オープンスクエアやサポートエリア等のオープンスペースやデスクトップPCが設置されているPC席がよく利用されていた（図9）。一方、グループスタディルームやグループスタディエリア、プロセスボックス、電子黒板が設置されているグループ席（電G）、ホワイトボードが設置されているグループ席（ホG）等では、グループでの利用が多かった。

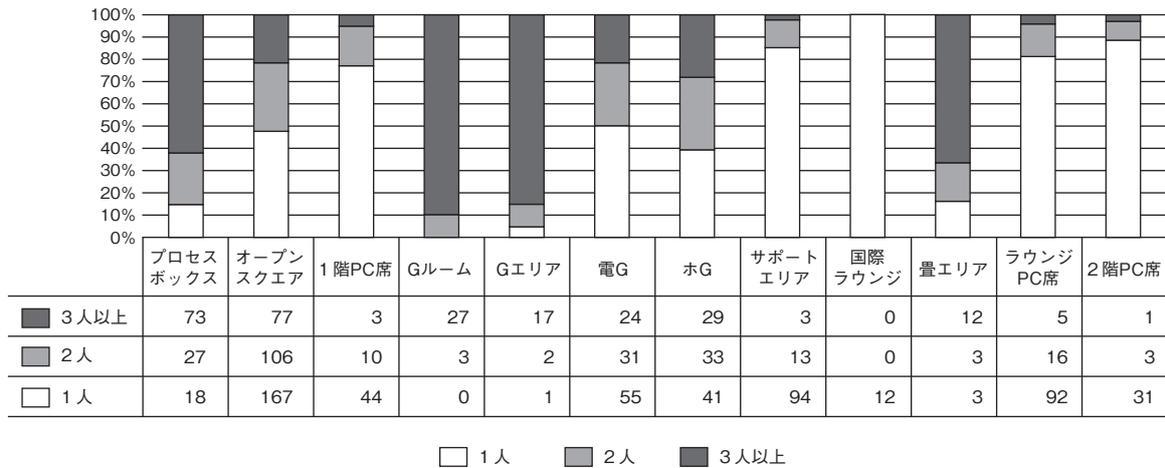


図9 エリアごとの利用状況

表5 機器類の利用状況

	電子黒板	プロジェクタ	ホワイトボード	貸出ノート	私ノート	デスクトップPC	携帯	ノート類	その他
1人	1	0	2	131	50	168	75	399	4
2人	11	1	12	96	24	46	39	201	2
3人	15	2	14	81	20	15	16	105	2
4人	22	6	9	55	22	4	11	73	0
5人	9	2	2	29	9	0	5	20	0
6人	6	1	2	26	9	0	0	14	0
7人	1	0	1	1	0	0	0	0	0
8人以上	4	3	2	2	0	0	0	4	0
合計	69	15	44	421	134	233	146	816	8
割合	6.4%	1.4%	4.1%	38.8%	12.3%	21.5%	13.4%	75.1%	0.7%

続いて、表5は利用している機器や道具類をまとめたものである。最もよく利用されていたのは、貸出ノートPC（421件）で、次いで、デスクトップPC（233件）、携帯電話（146件）、私物ノートPC（134件）であった。貸出ノートPC、私物ノートPC、デスクトップPCのいずれかを利用しているグループは、577件で、全グループの53.1%を占めており、PC利用のニーズが高いことがわかる。人数別にみていくと、一人で利用する場合は、デスクトップPCが最もよく利用されていたが、2人以上で利用する場合は、貸出ノートがよく利用されていた。

また、LCでは、ホワイトボードに比べ、電子黒板の利用の方が多いのも特徴である。遠海ほか（2016）によると、図書館1階のアクティブ・コートでは、電子黒板に比べてホワイトボードの利用が多かったが、LCでは、ホワイトボードより電子黒板の方が利用される傾向にある。前回、2016年11月12日に実施した観察調査（嶋田ほか2017）においても、電子黒板の方がよく利用されており、同様の傾向がみられた。

5-3. 質問紙調査の結果

次に、質問紙調査の結果についてみていく。利用目的を複数回答で尋ねたところ、授業の課題と回答したグループが272件で最も多く、次いで、試験勉強（162件）、課題以外の授業に関連する学習（68件）が多かった（表6）。これら授業の課題、試験勉強、課題以外の授業に関連する学習のいずれかを回答したグループは、497件で、質問紙に回答した全グループの84.7%が、正課に関する学習を目的に利用していた。一方、正課以外の利用には、就活準備が多く、クラブ活動などの正課外活動の利用は少なかった。

表6 LCの利用目的

利用目的	授業の課題	試験勉強	課題以外の授業に関連する学習	授業と関連しない学習	就活準備	クラブ	その他	無回答
グループ数	272	162	68	35	66	10	46	1
割合	46.3%	27.6%	11.6%	6.0%	11.2%	1.7%	7.8%	0.2%

表7 利用行動

グループの人数	プレゼン作成/練習	レポート作成	レジュメ作成	情報検索	印刷	本を読む	ノートにまとめる	問題を解く	その他
1人	24	121	27	29	33	40	83	62	27
2人	23	40	15	19	13	13	37	28	8
3人	18	16	2	5	3	5	13	15	8
4人	20	9	5	4	1	3	6	3	1
5人	7	2	2	2	0	2	4	2	2
6人	8	3	0	2	1	0	2	3	2
7人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8人以上	3	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	103	191	51	61	51	63	145	113	49
割合	17.5%	32.5%	8.7%	17.2%	8.7%	10.7%	24.7%	19.3%	8.3%

表7は、利用行動を複数回答で尋ねた結果をまとめたものである。レポート作成が最も多く、次いで、ノートにまとめる、問題を解くが多かった。これらは、調査時期が学期末の試験前であったことが大きく影響を受けていると推察される。各利用行動をみていくと、プレゼン作成は、2人～6人で取り組むグループが多いが、その他の行動は、1人～3人で利用している場合が多い。レポートやレジュメの作成、本を読む、ノートにまとめる、問題を解く等の利用行動は、個人の課題である場合が多いように思われるが、少人数のグループでも多く取り組まれていることがわかる。

さらに、2人以上で利用していたグループのみを対象に、課題の形態を尋ねたところ、グループ課題に取り組んでいるグループが109件、個人課題に取り組んでいるグループが100件、両方に取り組んでいるグループが32件であった（表8）。つまり、2人以上のグループで利用している場合においても、約4割は、個々の課題に取り組んでことがわかる。

表8 グループ利用における課題の形態

	グループ課題	個人課題	両方	どちらとも言えない
2人	30	26	18	9
3人	27	22	6	4
4人	27	9	3	1
5人	9	2	4	0
6人	11	2	1	0
7人	0	0	0	0
8人	5	0	0	0
合計	109	100	32	14
割合	42.7%	39.2%	12.5%	5.5%

表9 グループ利用における活動内容

	ディスカッション	打ち合わせ	教え合い	雑談	話さなかった	その他
2人	35	27	53	48	6	1
3人	16	20	29	19	1	2
4人	24	15	14	11	0	2
5人	6	7	5	3	0	0
6人	9	6	6	4	1	0
7人	0	0	0	0	0	0
8人	5	3	1	1	0	0
合計	95	78	108	86	8	5
割合	36.5%	30.4%	41.5%	33.1%	3.1%	1.9%

表10 グループ課題の形態と活動内容

	ディスカッション	打ち合わせ	教え合い	雑談	話さなかった	その他
グループ課題	65	58	28	23	0	1
個人課題	9	6	50	44	7	2
両方	17	12	24	15	0	0
どちらとも言えない	4	2	6	4	1	2
合計	95	78	108	86	8	5

表9は、グループ利用における活動に内容を表している。最も多い活動は、教え合いが108件で最も多く、次に、ディスカッション、雑談、打ち合わせの順に多い。ディスカッションと教え合いのいずれかをもしくは両方を選択したグループは、191件あり、アンケートに回答した全グループの73.5%を占めている。このことから、7割以上のグループにおいて、議論や教え合いといった活動が行われていることがわかる。

表10は、グループ課題の形態とグループでの活動内容をクロス集計したものである。グループ課題に取り組んでいるグループでは、ディスカッションや打ち合わせといった活動が多く行われていたが、個人課題に取り組んでいるグループでは、教え合いや雑談といった活動が多く行われていた。一方、グループで利用していても、グループの人と話さなかったグループは8

件あり、そのほとんどが個人課題に取り組んでいるグループであった。これらのグループは、黙々と個々の課題に取り組んでいたと推察される。それ以外の96.9%のグループでは、グループのメンバーと何らかのコミュニケーションを取りながら活動していたといえる。

6. 考察

本稿では、LC開設後1年間の利用状況について分析を行った。入退室記録からは、2016年後期に比べ、2017年度前期の利用者数が増加しており、ほぼすべての学部において利用率も伸びていたことが分かった。一方、土樋キャンパスで約半数、全学でも約8割の学生が一度もLCを利用したことがないという現状も明らかになった。本LCの主な利用者層は、文系学部の3・4年生であり、初年次の頃から利用する習慣を身に着けることは、環境面で難しいのが現状である。現在、学期開始時に、主に学部3・4年生のゼミを対象に利用者ガイダンス「コラトリエ・ツアー」を実施しているが、今後もより多くのゼミに参加してもらえるよう働きかけることが求められる。また、今回の調査においてもLCの滞在時間は、本学の他の施設に比べると長いことが示唆された。利用行動の大半が授業外学習であったことを考えると、LCの学習環境は、学生の授業外学習時間の増加という観点からも重要な役割を担っていることが示唆される。

次に、観察調査からは、今回の調査でも少人数での利用が多いことが明らかになった。本LCには、グループスタディルームやグループスタディエリア等、ゼミ単位でも利用できるよう、やや定員が多い空間もあるが、それらの空間でも少人数での利用が多かった。本LCの机や椅子は自由に移動でき、利用人数によってフレキシブルにレイアウトが変えられるように設計されているが、普段学生自らが机や椅子を積極的に自由に移動して利用する様子はあまり見かけない。そのため、これらの配置をあらかじめ、工夫して置いたり、見本をみせたりするなど、何らかの働きかけが必要かと思われる。また、容易に移動できる間仕切りを用意する等、レイアウトを工夫する余地があるだろう。

また、利用機器類については、今回の調査においてもPCの利用が多かった。一方、電子黒板やプロジェクタの利用は、あまり多くはなく、前回の調査時よりも少なかった。これは、調査時期が学期末であったことが影響していると考えられるが、今後もICT機器の利用サポートやガイダンスによって利用方法を周知する必要がある。また、機器の使い方だけでなく、ホワイトボードを使ったアイデア出しやグループでのアイデアの出し方といった思考整理法に関するセミナーも一つの手立てであると思われる。

最後に、質問紙調査からは、利用目的の大半が正課に関わる学習（学修）であったことが明らかになった。このことから、今後も正課と連携した運用が効果的である。具体的には、グル

ープ課題やLCの学習環境を活用することを前提とした課題の出し方の提案等、教員に対する働きかけが考えられる。また、LCの利用行動として、「レポート作成」が最も多く行われていた。LC内では、ライティング支援も行っているが、利用は少ない現状がある。利用が少ない要因には様々考えられるが、LCの利用者に対してサービスの周知を促すパンフレットや利用のきっかけになるような自己点検シート等を配布することも一つの手段であると思われる。

さらに、質問紙調査によって、グループ利用の具体的な活動も明らかにすることができた。今回の調査では、7割以上のグループにおいて、議論や教え合いといった行動が見られ、ほとんどのグループ利用において他者とコミュニケーションしている様子が明らかになった。また、個人課題に取り組む際にもグループで利用しているケースが多く、互いに教え合うといった活動も多く行われていた。これらの活動は、本LCの設置コンセプトである「学生が集い、互いに教え、学び合い、多様な価値観に触れることにより、主体的に問題を発見・解決するアクティブ・ラーニングを実現し、『よく生きる』『社会に貢献できる』人が育つ知的空間」を実現する具体的な学習行動である。こうした活動を通じ、どのような能力が身に着いているのか、また、どのような学びが起きているのかといった分析も今後必要である。

7. まとめと今後の課題

本稿では、開設後1年間のLCの利用状況を、入退室記録、観察調査、質問紙調査から明らかにし、LCの現状と今後の課題について考察した。本研究では、定量的なデータによって利用実態を明らかにすることができたが、LCの利用と成績との関係やLCでどのような学びが起きているのか、またその学びによってどのような力が身に付いたかといった学習成果に関する分析は、今後の課題である。また、本研究で明らかになったことを踏まえ、今後どのような方法を用いて改善していくのか、またその改善が本当に行われているのかといった検証も今後行っていきたいと考えている。

参考文献

- 遠海友紀・嶋田みのり・帖佐和加子・稲垣忠（2016）「大学図書館における協同学習スペースの利用実態調査－東北学院大学「アクティブ・コート」の事例－」日本教育工学会第32回全国大会講演論文集, pp.735-736
- 嶋田みのり・遠海友紀・帖佐和加子・村上正行・稲垣忠（2016）「大学図書館内協同学習スペースにおける3、4年生の授業外学習の実態及び学習支援のニーズ調査 東北学院大学アクティブ・コートの事例」大学教育学会2016年度課題研究集会要旨集,pp.68-69

- 嶋田みのり・遠海友紀・帖佐和加子・村上正行・稲垣忠 (2017)「東北学院大学ラーニング・commonsにおける開設初年度の利用傾向」日本教育工学会研究報告集JSET17-1、pp97-102
- 金子尚登 (2015)「ラーニング・commons:利用実態調査からみる利用傾向」島根大学附属図書館報、第17巻、pp. 55-62
- 鈴木夕佳 (2015)「利用実態からみるラーニング・commonsの学習行動－学年別の差異に着目して」同志社大学学習支援・教育開発センター年報、第6巻、pp.51-73
- 立石亜紀子 (2012)「大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態」Library and information science第67巻、pp39-61
- 津村光洋 (2011)「鳥取大学附属図書館のラーニングcommons」, 鳥取大学教育研究論集, 第1号, pp. 97-102
- 東北学院大学学生部 (2015)「第21回学生生活実態調査報告書 (2014年9月調査実施)」 pp. 73
- 野中陽一郎・横山香・中間玲子他 (2014)「ラーニング・commons導入期における空間利用状況：定点観測からの探索的検討」, 兵庫教育大学研究紀要, 第44巻, pp. 207-218
- 浜島幸司・岡部晋典・鈴木夕佳 (2017)「ラーニングcommons内のエリア別利用傾向と学習成果：同志社大学良心館LC利用アンケート調査から」同志社大学学習支援・教育開発センター年報、第8巻、pp.3-19
- 三根慎二 (2012)「ラーニング・commonsはどのように利用されているか：三重大学における事例調査」三田図書館・情報学会研究大会発表論文集, pp. 25-28
- 山田かおり (2016)「ラーニングcommons設置前後の大学図書館の利用実態：嘉悦大学における事例調査」嘉悦大学研究論集, 59巻, pp.101-106